

Shining ほいく

公開保育特集号



来年度もあなたの街に公開保育がやってくる!

令和4年2月22日(火)
板橋区役所保育サービス課

この研修は、区立保育園が保育を公開する中で、実践を通じた学びを地域で共有するために、「保育の公開」及び「地域交流研修会」を柱に開催されているものです。

6地域ごとに「公開保育」に取り組んでいますが、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「公開保育」は中止となりました。今年度は各園感染対策を講じながら実施しました。

各園では地域連携を推進する中、ご近所の保育施設と保育について語り合い、課題や保育の質の向上に向けた取り組みを共有していきたいと考え取り組んでいます。テーマは各園で設定しております。

日頃抱えている保育の課題や悩みを、「自分の園でも試してみよう」とか「どこの保育園でも同じ悩みがあるのだな」と課題の解決に繋げていただけたように思います。「公開保育」の良いところは、近隣園での開催のため、気軽に参加いただけること。これからも「気軽に!」を合言葉に、地域連携の中での学び合いに取り組みたいです。

各地域の取り組みを特集号としてまとめました。参考にご覧いただき、来年度の公開保育を楽しみにしていただければと思います。



来年度も、公開保育をお楽しみに!!

【高島平地域】

高島平くるみ保育園公開保育

12月2日(木)

テーマ 「日々の積み重ねから基礎体力UP」

～生活や遊びを通して体幹を育て心も体も健やかに～

講師 ミットキッズ 主宰 倉上千恵先生



・R2年度から継続して取り組んできた体幹遊びに加え「くるみ保育園の環境を活かす」「子ども達が主体的に関われる遊びを用意する」という2点にも注目し取り組みを重ねていきました。

* バランスディスク 3歳 *

* バルーンマット *



2年間継続して取り組んできた遊び

手軽に用意でき、子どもが主体的に関われる遊び

クラスごとに取り組み、**継続してきた遊び**と**手軽に用意できる遊具**で子どもたちが**主体的に(自由に)関われる遊び**を合わせると**24種類**にもなりました。また、広い園庭を活かした「**タイヤトランポリン**」は乳児から幼児まで発達に応じた遊びを楽しめる新たな園庭遊具になりました。



取り組みの中での気づきとまとめ

運動遊びの『タネ』は、身近にあります。工夫次第で子どもに興味や関心を抱かせることができ、身近なものだからこそ設定に手間がかからず、いつでも遊びに繋がっていくことができました。乳児期の『たくさん這う』ことから始め、意識的に体幹を使う遊びを継続的に経験させていくことで、身体を動かして遊ぶ事の楽しさを無理なく体得していきます。『楽しく続ける』ことができる為には、保育士の環境設定の工夫が重要です。子ども達が、達成感を実感できるように、保育士はしっかりと子どもの姿を見つめ、小さな変化を見逃さず声を掛けたり、共に楽しんだり、喜ぶことが大切です。この関わりこそが、子どもの『やる気』を育みます。



*** 午後は、「ミッドキッズ 倉上 千恵先生」をお招きして「運動あそびでこころと体を育てる」をテーマに講演をお願いしました* (講演内容紹介)**

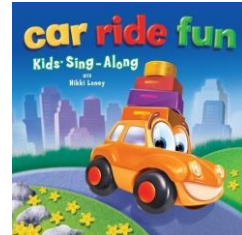
小さな子どもは、運動遊びの中でたくさんの成功体験を繰り返します。この成功体験は『自分はできるんだ』『私は大丈夫』という自己肯定感をはぐくむ基盤となります。遊びを基盤とした運動を通して、体づくりに取り組む事は**私たち保育者が子ども達に贈れる最高のプレゼント**の一つではないかと考えています。

《じゃれつき遊びしてますか?》

【興奮・抑制】の弱い、集中力や落ち着きのない子にとって**じゃれつき遊び**は、『前頭葉』の「興奮」の強さを発達させるだけでなく、「抑制」の強さも一気に発達させ、すばらしい集中力を育ててくれます

☆室内での運動遊びでは音楽などのBGMを有効活用しましょう。

子どものテンションを盛り上げたり、静めたりと音楽を効果的に使います。【先生がよく使用するCDです↑】



テーマ 「五感を育てる保育」 ～おもしろがる気持ちを引き出す～

講師 東京家政大学院 客員教授 佐藤暁子先生

小桜保育園では豊かな感性を育てるために、保育のしかけの工夫や子どもの反応から保育内容を深めてきました。触れる、見る、聞く、嗅ぐなど、各クラスの発達に応じて、子どもの興味や関心から学ぶ力につなげています。

0歳児 感触あそび



安心できる環境の中で、しかけのある段ボール道を歩いたり、触れて興味を持って遊んでいます。床や壁にしかけを作って好きな素材に触れて楽しんでいました。

1歳児 フラワー紙を使った遊び



フラワー紙で、ちぎったり、舞い上げたり、丸めて遊びました。水を含ませると感触の違いを感じていた子どもたちでした。

2歳児 落ち葉のスタンプ遊び



落ち葉のにおいをかいだり、触れてスタンプで遊びました。葉っぱの形や模様の面白さを感じて言葉で伝えようとする姿がみられました。

3歳児 お店屋さんごっこ



散歩先で集めた葉っぱや花びらを使って色水を作りました。遊びを進めていくと役割を交代していろいろなお店屋さんを楽しむ姿がみられました。

4歳児 にじいろカメレオンの壁面作り



様々な素材を使って、塗る・ちぎる・貼る・重ねるなどしてカメレオンの背景を作りました。体の色の変化をみて楽しんでいました。

5歳児 コリントゲームづくり



段ボールの板に様々な素材を切り貼りし、ビー玉を転がして遊びました。友だちと協力したり、仕掛けを工夫して進めていました。

五感を育てる保育とは・・・

0歳児は情緒の安定した生活の中で目で見て受動的な五感から始まり、1・2歳児は自ら触るといった能動的な経験を継続して行いました。幼児期になると友だちと共感しあい、遊びの中で、豊かな経験を通して感じたり考えたり、試したり工夫する自ら考えて行動することにつながっています。

午後の講演内容紹介

つながる！ひろがる！ふかまる！子どもたちの世界

東京家政大学大学院客員教授 佐藤暁子先生

「遊びの中で、遊びを通して学ぶ保育の実際

何だろう？面白そう！不思議だな！ワクワク！」

というテーマでお話をさせていただきました。

テーマ「主体的に遊ぶための環境構成」

講師 東京家政大学 准教授 野口隆子先生

赤塚保育園には広い園庭があり、色々なクラスの子ども達と一緒に遊んでいました。
コロナ禍になり、遊ぶ場所が少なくなってしまった子ども達。
子ども達が自由に生き生きと遊べる場所を作ろうと、2階テラスの有効活用を始めました。
子ども達の声に耳を傾け、小さなヒントを頼りに環境を整えています。

「テントがあったら楽しそう」
「遊具が欲しい」
「おままごとがしたい」と、子ども達の声。



職員も色々なものを用意しました。
フラフープ、マット、手や足型のマット、タイヤ等々
どんな遊びをするのか？と、見守っていると・・・
遊びをどんどん発展させていて
こちらの想像を遥かに超えていきました。

- ☆タイヤやフープを転がしての鬼ごっこ。
- ☆タイヤを積み上げて、お風呂屋さんごっこ。
- ☆マットを使って迷路やドンチケタ。

☆遊ぶ場所が増え、園庭とテラスで
子ども達は生き生きと遊んでいます。



地域交流会

・赤塚保育園の報告と
野口先生の講演
・後半は、グループ討議
◎今後も子ども達の声に耳を傾け、主体的に遊べる環境を整えていきたいと思ひます。



テーマ 「幼児交流を通して異年齢の友達と関わって楽しく遊ぶ」

講師 東洋大学 教授 内田千春先生

3, 4, 5 歳児クラスのお友達が1つの家族になって活動する「どうぶつ家族」は中板橋保育園の伝統です。今年度は赤、黄色、緑の3つの縦割りグループで幼児交流保育を計画的に保育に取り入れてきました。

公開保育では「ごっこ遊び」を行い、どうぶつ家族のお友達と一緒に係をしたり、好きなコーナーで遊んだりする姿を見て頂きました。



★ワニワニパニックコーナー



家族で係を張り切ってやっています♪

家族のお友達と一緒に♪



★魚釣りコーナー



★わなげコーナー



講演会と地域交流会

「どうぶつ家族」の活動の講評では、特定児の行動を追って気持ちを読み取り、その考察を伺うことで、子どもを多面的に見ることの大切さを学びました。また保育士の意図的な働きかけによって、思いやりの気持ちが育ったり、主体的な遊びを生み出したりするという話から、保育指針における「3つの資質、能力」が大事である事に繋がっていく事を再認識することが出来ました。



講演会では、社会情動的スキルと認知スキルはセットであり、影響しあい絡まりながら両方育っているからこそ自己実現ができるようになる。それらが、子ども達が自分の人生を幸せに切り開いていく基盤を育てる事になる等、先生のグローバルな視点からの様々な話を伺うことが出来ました。

地域交流会の様子

公立、私立、小規模保育園、家庭福祉員さんが2グループに分かれ、交流会をしました。コロナ禍なので、なかなか異年齢児交流が出来ない中での各園の工夫を話し合ったり、同じ地域の小規模保育園や家庭福祉員さんと情報交換することが出来、有意義な時間を持つことが出来ました。



テーマ 「食べたい気持ちを育む」
講師 相模女子大学 教授 堤ちはる先生

蓮根保育園では、子ども達の食事への意欲の薄さや残菜量の多さを感じ、コロナ禍で出来ないことも多いもの
の今できることは何か…を考え、取り組みました。まず、各クラスの現状を出し合い、「**食への関心を持つための
アプローチをしよう！！**」お腹を空かせて食べられるように、「**身体を動かすアプローチをしよう！！**」保育
士、調理、用務と色々な職種の人に関わって「**関りからのアプローチをしよう！！**」と年齢に合ったアプローチを
行ない、エピソード記録を取って、子どもの変化や悩み、今後へ向けてを話し合い共有してきました。

コロナ禍でもぐもぐが伝わらない～！！
そこで、**モグモグさん**登場！！



保護者向け掲示



煮干しはどこに入ってるの？



盛り付けを変えてみて



実物を触って



製作



色々な実験



食育 PT が主体となり、**食材を生で見せる、給食の盛り付け方を変えてみる、調理室探検動画の作成、給食アイテアの工夫を保護者向け掲示**にし、発信してきました。

調理員のひと工夫や
日々の楽しい食材展示

野菜当てクイズ



ミックスクッキー

この取り組みを通して、改めて食事は生活の一部であることを感じ、職員全体で『食』を取り入れた保育の話をするようになったこと、一人ひとりに気持ちの変化があり保育を考える機会となったことは、大きな成果でした。まだまだ第一歩を踏み出したところですが、今後も継続して取り組んでいきます。



講演 「乳幼児の食事
～保護者支援も含めて～」

講演会では、堤ちはる先生より『乳幼児の食育でめざすもの』『様々な「こ食」について』『保護者への「食」の支援について』などのお話を聞かせていただきました。

私達は専門職として保護者や子ども達に具体例を示しながら当たり前を守り、伝えることが必要！
という言葉が心に残りました。その後、先生の全国での研修会でも、自園の取り組みを紹介していただき、色々な園での食育の推進につながったことを嬉しく思いました。

テーマ 「子どもたちが食事に興味を持てるような働きかけを考える」

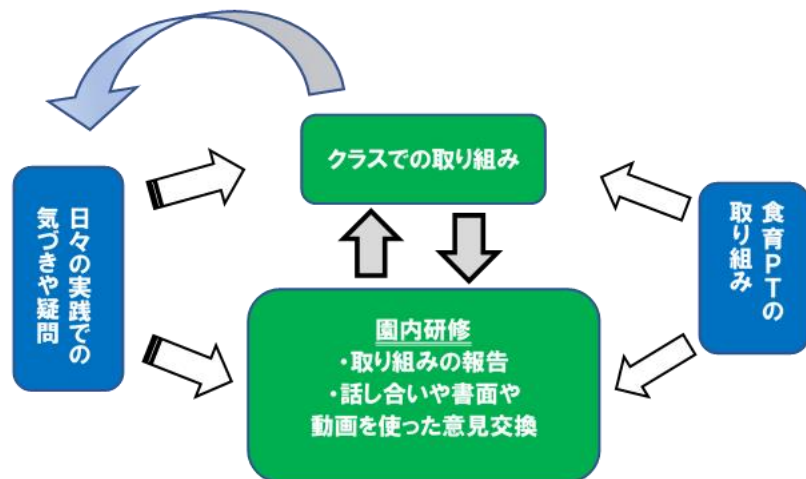
講師 白梅学園大学 教授 林薫先生

野菜の栽培や食育集会など、向原保育園では以前から食育活動に取り組んでいましたが、“食べさせる”ではなく、子どもが自分から食べたいと感じて食べられるようになる働きかけについて、改めて考え取り組みました。

環境設定や、食事以外の活動にも目を向け、年齢ごとに実践したことに全職員で意見を出し合っ、また実践へ。こうしたサイクルを重ねてきました。

変化する子どもの姿に新たな課題が見つかることもあり、取り組みは継続していきました。

当日参加された地域の保育士の皆さんからは、「年長クラスの実験ごっこから食材の特性を発見するアプローチに驚いた」「無理をしない、でも次へ繋げる子どもの



2歳児クラス。野菜の生長がわかりやすいよう目印をつけました。

可能性を信じて取り組んでいる面が印象的だった」「同じ年齢担当の先生と話ができてよかった」など沢山の意見をいただきました。また「次の年齢へ繋げていく実践が素晴らしい」との声も。職員も「積み重ね」の重要性をそんな声からも改めて学び、向原保育園の食育の継続性を支えている食育PTの存在意義を確認しました。そして園内、また地域の中でも保育を語り合える関係作りを今後も続けていきたいと思ひます。



4歳児クラス。マンネリ化していた『食ベレンジャー』も他クラスに出張することで、やる気アップ。小さいクラスの友だちにわかるよう工夫もしていました。

白梅学園大学教授 林 薫先生からは「心地よい食事」についてお話していただきました。その中で向原保育園のいいところとして、食事に向かうまで子どもが期待や意欲を持てる（乳児が自分で自分の席まで向かう）、生活の中で一人ひとりに合った食事時間と内容になっている、子どもに向き合い、応答的、共感的な関わりをしているなどがあげられました。子ども一人ひとりの「食べたい」「眠たい」という生理的欲求をどのように満たしているか？これが最も大切な食育。食事は頑張らせなければいけないこと？当たり前のように、あ…！と思ひ当たる場面が皆さんにもあるのではないのでしょうか？そんな日常を振り返る貴重な研修会となりました。

